

marie claire

marieclairejapon.com

25th January, 2024
No.181

Fresh
Start

新しい季節に
希望を込めて

本サービスを利用した営利目的の活動行為、
あるいは本サービスを通じて入手した情報を
複製、販売、出版その他
私的利用の範囲を超えて使用する行為の
一切を禁止します。



Welcome to marie claire vol.181

いよいよパリオリンピック・パラリンピックが今年の7月26日から8月11日まで開催されます。パリの街は、先日コレクション取材で訪れた時は、市内各所で準備のための工事が進められていて渋滞がひどく、車での移動は難しく、もっぱら地下鉄を利用していました。

パリは普通の時でも、世界No.1の観光都市なのですが、訪れる観光客は2023年では3700万～3800万人と推定され、コロナ禍前の水準(3900万人)に戻るような数字だったそうです。しかし、日本、中国、韓国からの観光客はその水準に戻っていないとのこと(パリ市国際観光局)。オリンピックイヤーの今年は、果たしてどうなるのか? 多分、オーバーツーリズムになってしまうだろうと推測されています。それを予測して、パリ市内の美術館などは、オリンピック期間中を含めクローズされることが決まったようです(ルーブル美術館とオルセー美術館は、開会式の7月26日からクローズされる。他の美術館は未定)。パリ市観光の大きな魅力の一つである美術館巡りができなくなるのは残念ですが、こんな試みが企画されています。今月はそのお話を。

先日、「GIP ノルマンディ印象派(GIP Normandie Impressionniste)」という官営組織のディレクターを務めている方とお会いしました。



[Normandie印象派2024]

フランス・ノルマンディ地方では今年3月22日から印象派生誕150周年を記念し、9月22日まで半年間、「Normandie Impressionniste2024」と題し、ノルマンディ地方の各地の公共施設や美術館を使ってフェスティバルを催すということです。もちろん印象派の誕生150周年を祝うイベントですが、パリで美術館巡りができなくなるため、ノルマンディ地方の各地で、人気の高い印象派の展示をして少しでも観光客を満足させようという意図です。

ノルマンディ地方はイギリス海峡に臨むフランス北西部の地方のこと。第二次世界大戦の転機となったノルマンディ上陸作戦でも有名です。満潮の時は海に浮かぶお城の姿を見せるモン・サン・ミッシェルをはじめ、オンフルール、ル・アーヴル、カン、ルーアン、ドーヴィル、シェルブールなどの街も含まれ、観光地や避暑地としても有名な場所が数多くあります。私もこれまで何回か足を運んでいて、その魅力のとりこになってしまった一人です。

印象派を代表する画家クロード・モネの作品「印象・日の出」は印象派の名前の由来になった作品ですが、モネはこの作品をル・アーヴルで描いています。またル・アーヴルのアンドレ・マルロー近代美術館は印象派の作品を中心に展示していて、パリのオルセー美術館に次ぐフランスで2番目のコレクション規模です。

このフェスティバルではモネをはじめとする印象派の代表作だけでなく「歴史やヘリテージ」を紹介、展示作品の50%は歴史的作品を展示しますが、残りの50%は印象派から影響を受けている現代美術も展示する予定だそうです。なお現代美術作家の50%は女性で、その中には日本の作家3名が含まれています。

またこのフェスティバルに合わせ、ノルマンディ地方のガストロノミーのイベントも開催される予定だと言います。

フランスはもともと農業大国でもあり、またフランス料理は2010年「食の伝統」としてユネスコの無形文化遺産に登録されています。ノルマンディ地方は湿気が多く、牧草が豊富に育つので放牧に適し、乳製品の生産が盛んで、バターやカマンベールをはじめとする美味しいチーズが大量に生産されています。英仏海峡では魚のほか甲殻類も豊富にとれ、またノルマンディ地方では牡蠣は1年中よく食べられます。

印象派を見た後、ノルマンディ地方のリングから作られるシードルやカルバドスを飲みながら、現地の食材から作られた料理を楽しむという、エスプリの利いた旅を今年は体験するというのはいかがでしょう?

2024年1月25日

Katsuto Tai
田居克人

Katsuto Tai, marie claire 編集長

Contents

- 5 Welcome to marie claire /
- 6 Cover Story: Emma Stone /
- 8 Lucky Wallet /
- 10 Max Mara /
- 12 CHAUMET /
- 13 JIMMY CHOO /
- 14 Travel /
- 16 TAHITI,
JGP International Orchid and
Flower Show 2024 /
- 17 Travel:
HOSHINOYA OKINAWA /
- 18 Chocolate: Lots of Love /
- 19 Art: Henri Matisse
- Forms in Freedom, shop list

cover

photo: ©Austin Hargrave/AUGUST/
amanaimages

marie claire

2024年1月25日発行 第13巻 第1号(通巻181号)

発行人 Publisher:

安部順一 Junichi Abe

編集長 Editor in Chief:

田居克人 Katsuto Tai

デジタル編集長 Editor in Chief Digital:

宮智 泉 Izumi Miyachi

アートディレクター Art Director:

木村裕治 Yuji Kimura

ビジネス スペシャリスト Business Specialist:

齊賀明宏 Akihiro Saiga

副編集長 Deputy editor:

大林理子 Riko Obayashi

編集部 Editorial Team:

高波麻奈美 Manami Takanami

マルチンバイヤル ホスツェツェグ

Malchinbayar Khostsetseg

岩崎芽衣 Mei Iwasaki

パリ特派員 Paris Correspondent:

須山佳子 Keiko Suyama

デザイン Design:

木村裕治 Yuji Kimura

佐藤 幹 Miki Sato

発行 Publication:

読売新聞東京本社

〒100-8035 東京都千代田区大手町1-7-1

tel: 03-3216-8815

THE YOMIURI SHIMBUN

印刷 Printing:

共同印刷

KYODO PRINTING CO.,LTD.

MARIE CLAIRE INTERNATIONAL

Executive director:

Jean de Boisdeffre

Deputy director:

Felix Droissart

Deputy director (marketing and special operations):

Nicia Rodwell

International editorial director:

Séverine Harzo

International fashion and beauty chief editor:

Sylvie Halic

International commercial director:

Elodie Bretaudeau Fontailles

International deputy commercial director:

Elisabeth Barbier

Syndication director:

Thierry Lamarre

©MARIE CLAIRE ALBUM 2024

©THE YOMIURI SHIMBUN 2024

本誌掲載の記事・写真、イラストの無断転載を禁じます。

※本紙に掲載されている商品の価格は
特記されている場合をのぞき、すべて税込みです。



Emma Stone

Fresh Start
Cover Story
text: Masami Shimura

超越した存在感で世界を魅了する エマ・ストーンが挑んだ最新作

2007年に映画デビューを果たしたのち、『アメイジング・スパイダーマン』のヒロイン役で人気を博したエマ・ストーン。その後、世界的大ヒットを記録した『ラ・ラ・ランド』で賞レースを席卷すると、ハリウッドのトップスターとしての地位を確固たるものにした。誰もが新作を待ち望むなか、天才監督ヨルゴス・ランティモスと最強タッグを組んだ話題作『哀れなるものたち』がついに公開。壮大な傑作に立ち向かった思いを明かす。



鬼才ヨルゴス・ランティモス監督とエマ・ストーンほか、超豪華キャストが未体験の驚きで世界を満ちた最新作。原作は、スコットランドの作家アラスター・グレイの傑作ゴシック奇譚『哀れなるものたち』。天才外科医によって蘇った若き女性ベラは、未知なる世界を知るため、大陸横断の冒険に出る。時代の偏見から解放されたベラは、平等と解放を知り、驚くべき成長を遂げていく

第80回ヴェネチア国際映画祭で最高賞となる「金獅子賞」、第81回ゴールデン・グローブ賞で作品賞と主演女優賞を受賞し、本年度アカデミー賞最有力候補との呼び声も高い『哀れなるものたち』。ギリシャが生んだ鬼才ヨルゴス・ランティモス監督の最新作としても注目を集めているが、そのなかで超越した存在感を放っているのが自ら命を絶った不幸な女性ベラを演じた女優エマ・ストーンだ。劇中では、天才外科医によって「生まれだての女性」として奇跡的に蘇生したベラが自分の力で真の自由と平等を手に入れる姿が映し出されていく。エマは主演のみならず本作のプロデューサーも務めているが、この物語に惹かれた理由をこう語る。

「ヨルゴスがベラのことを説明してくれたとき、私たちはとても似ていると感じたし、彼女のような女性になることは刺激的

だと思ったわ。ベラは女性に典型的な制約を強いる社会で育っていないから、自由に世界を探求することができる。セクシュアリティに関してさえも判断力や羞恥心がまったくなく、自分の目を通して世界をどのように受け止めているかがすべてなのよ。私たちは周りの人々が自分のことが好きかどうかを考えてしまうけれど、彼女はそんなことに気にしない。だから、いまでも私はベラを恋しく思い、彼女ならどうするかを時々考えるほどよ」

エマはベラのことを「精神的に幼くても、これまで演じたなかで最も進化した女性」とも話しているが、観客もベラの魅力には抗うことができないだろう。ランティモス監督もまた、その1人であると明かす。

「僕はただ彼女に恋をしてしまったんだ。そうなるも、もっと聞きたい、もっと見たいという気持ちを止められない。だから『彼女は次に何をするつもりなのか?』『周

囲のあらゆるものを彼女はどのように受け止めるのか?』『適合しない世界に彼女はどのように反応するのか?』といったことが映画の軸になっていったんだ。彼女の存在は、映画の構成や創作を試みるうえで、とても興味深いものだったよ」

本作は同名小説に魅了されたランティモス監督が、2011年頃に原作者であるスコットランドの作家アラスター・グレイのもとを訪ねて映画化の許可をもらったところから始まっている。

「これまで読んだことのないような作品に僕は心を奪われたし、登場人物、テーマ、ユーモア、そして言葉の複雑さに惹かれたんだ。視覚的にも印象的でありつつ難解。読んだ直後から興奮してしまって、『なぜいまでも誰も映画化しなかったんだろう?』と考えたくらいだよ」

映画化しなかったのではなく、おそらく「難しすぎてできなかった」が正解ではないかと感じるほど、誰もが挑めるような作品ではない。ランティモス監督でさえも一時は企画が思うように進まなかった時期もあったというが、エマにとってもランティモス監督にとっても、さまざまな経験とキャリアを積んだいまこそがまさに「正しいタイミング」だったのではないだろうか。『女王陛下のお気に入り』でもタッグを組んだランティモス監督に対し、エマは惜しみない称賛の言葉を贈る。

「私はヨルゴスと脚本のトニー・マクナマラのユーモアと心の傷を美しく燃り合わせる手法に、いつも尊敬の念を抱いているの。なぜなら、それが人生というものだと感じているからよ。あと、ヨルゴスは女性を理解しているだけでなく、女性を愛し、見事に語る監督であるとも言えるわね。だから私はこの映画を作れるのはヨルゴスしかいなかったと思っているの。このレベルに達する作品にできる監督はほかにはいないと考えている

ほどよ。そんななかでこの役を演じるというのは、女性であること、そして勇敢で自由であることを解き放ち、受け入れることのように感じたわ」

そう語るエマも、ほかの女優がベラを演じることは不可能だろうと感じさせるほどの演技で他を圧倒。その様子を目の当たりにしたトニーは、「エマはコメディとドラマの両方に対して並外れた才能を持つ女優」と評している。事実、大人の女性でありながら子供の頭脳を持ち、セクシュアリティに自由奔放なベラほどの難役を大胆かつ繊細に表現できたのはエマだからこそと言っても過言ではない。

『ラ・ラ・ランド』に引き続き、2度目のアカデミー賞主演女優賞受賞の期待が高まっているエマ。作品を発表するたびに進化し続け、女優としてさらなる高みへと上り詰めていくエマの雄姿は、観る者の心を揺さぶり、忘れられない映画体験へと誘ってくれるはずだ。

©2023 20th Century Studios. All Rights Reserved.



『哀れなるものたち』(原題: Poor Things)
公開日: 1月26日(金)
監督: ヨルゴス・ランティモス
出演: エマ・ストーン、マーク・ラファロ、ウィレム・デフォー、ラミー・ユセフ、ジェロッド・カーマイケル、クリストファー・アボット、マーガレット・クアリー、ハンナ・シグラ他
配給: ウォルト・ディズニー・ジャパン
公式サイト: <https://www.searchlightpictures.jp/movies/poorthings>



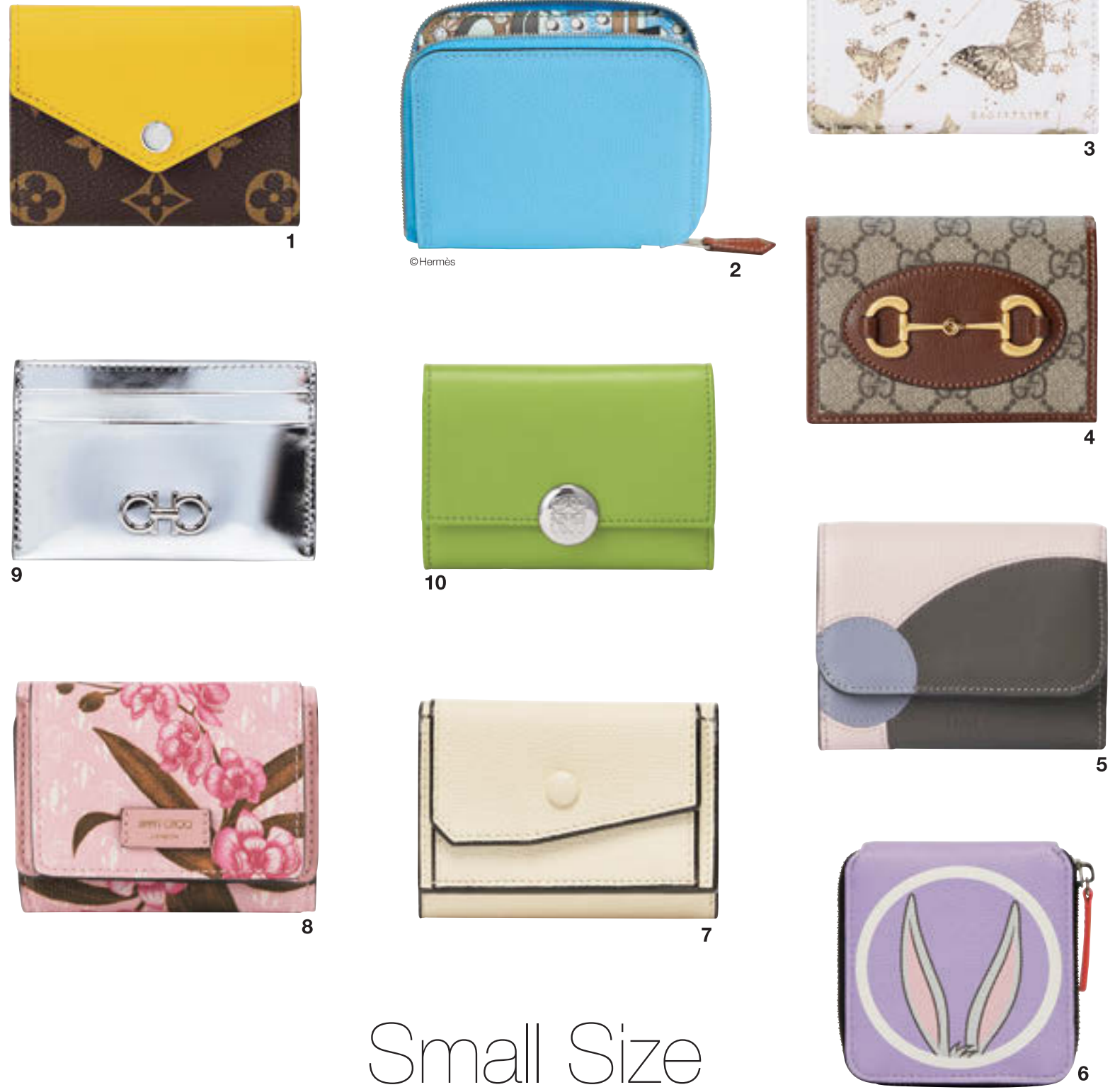
青日タロウ(アオヒタロウ):タロティスト
 タロットカード・占星術を用いて、相談者があるべき自分自身でいられるよう、そっと背中を押す
 カウンセリングに定評がある。WEB媒体にて占い連載も行う。@aohi_tar0

Lucky Wallet

開運財布を手に入れて新しい季節をスタート!

新年に新調する財布は「春財布」と呼ばれる縁起物。
 運気アップを狙うならラッキーカラーやモチーフをしっかりとおさえて選びたいもの。
 今回はタロティスト・青日タロウ氏が指南するキーワードをもとに開運ウォレットを厳選。
 realization: Maki Kimura

♊ 乙女座virgo 8月23日→9月22日★心へ余裕が生まれる時、ポジティブな思考を選択し続けていたら、ちょとした幸せにも敏感になるようになります。心も身体も軽やかに、願いが叶いやすくなります。



Small Size 身軽なスモールサイズの財布で運気アップ

2024年を一言でいうと「変革の最中」。身の回りををはじめとして、社会の枠組みもデジタル化がさらに進み、ダイナミックに素早く形を変えていく。
 それに合わせて自分の価値観もアップデートしていきながら、「身軽」でいることが重要に。そんな日々にはラッキーを呼び込むなら、コンパクトな「スモールウォレット」に注目。目まぐるしい変化の中で、たくさん荷物を抱えたままでは、物理的にフットワークも鈍りがち。
 お財布の中身もスマートにすることで、普段から軽やかさを意識できるはず。

1. Louis Vuitton ヴィヴィッドなフラップとモノグラム・キャンバスのコンビがキュート。コインポケットと4つのカードスロットも備えた実用性も魅力。財布 [W9.5×H7.5×D3] ¥75,900 [予定価格] (ルイ・ヴィトン/ルイ・ヴィトン クライアントサービス)
2. Hermès 爽やかなライトブルーのカーブレザーにシルク仕様のライニングがのぞく。"エルメス・エレクトリック"と名付けられた柄がプレイフル。財布 [W11.5×H9.5×D1] ¥129,800 (エルメス/エルメスジャパン)
3. Dior 占星術のサインと蝶で星空を表現した「バタフライ」ゾディアックがアイコンック。ホワイト×ゴールドトーンにシグネチャーロゴが映える。財布 [W11.5×H9×D2] ¥105,000 (ディオール/クリスチャン ディオール)
4. Gucci GGスプリム キャンバス×ブラウンレザーのシックなムードにホースビットがアクセント。コンパクトながら紙幣、コイン、6枚のカードが入る大容量。財布 [W11.5×H8×D3] ¥84,700 (グッチ/グッチ クライアントサービス)
5. Chloé コントラストが利いたパッチワークが目玉の「moona」からクラッチバッグにも取まるスモールサイズの三つ折りが登場。財布 [W11×H9×D4] ¥82,500 (クロエ/クロエ カスタマーレレーションズ)
6. Max&Co. 90年代のアイコン「ルーニー・チューンズ」のカラーパレットを再現。バッグス・パニーの耳がスクエアフォルムにのぞく姿がチャーム。財布 [W10×H10×D2] ¥23,100 (マックス アンド コー/マックスマーマー ジャパン)
7. Valextra フロントにコインケース、札入れの中に3つのカードホルダーが配されたコンパクトバース。手作業で独自の染料を何層も塗り重ねたコバは温かみのある風合い。財布 [W10×H7×D3] ¥89,100 (ヴァレクストラ/ヴァレクストラ ジャパン)
8. Jimmy Choo ピンクのコーテッドキャンバスに華やかなオーキッドが咲く日本限定アイテム。大胆なフラワーモチーフも今年はコンパクトなサイズ感で。財布 [W10×H7.5×D4] ¥57,200 (ジミー チュウ)
9. Ferragamo カードスロットが裏表に各2つ、中央にフラットポケットを備えたキャッシュレス時代に最適なカードケース。光沢シルバーにダブルガンテラニが映える。カードケース [W10.5×H7] ¥33,000 (フェラガモ/フェラガモ ジャパン)
10. Loewe アナグラムを刻印したシルバーのペブルスナップが特徴的な新作。鮮やかなグリーンリーフカラーは日本限定。財布 [W11.8×H8.2×D3] ¥102,300 (ロエベ/ロエベ ジャパン クライアントサービス)

marieclairejapon.com

♌ 獅子座leo 7月23日→8月22日★望みに集中する時、何も制限がなかったら何を望みますか? 自由でワクワクすることを頭の中で描きます。もっと自分の望みに乗直になつていいのです。意識の中では自由に創れます。

♋ 蟹座cancer 6月22日→7月22日★望みを明確にする時、具体的に現実的な目標を設定します。どれだけの収入でどんな生活を望むのかを明確にします。ポジティブな思考を心掛けて、具体的な行動と努力も楽しみます。



Pale Tone & White ラッキーカラーはペールイエロー&ピンク、ホワイト

2024年のムードを知るためには、「拡大の星」である木星の位置に注目を。
 5月後半までは牡牛座に滞在するので、大きく変わっていく世の中を前に、自分自身や身の回りの「rich=豊かさ」を大切にすることが開運のカギに。
 そんな2024年のラッキーカラーは、豊かさや知性を想起させる「ペールイエロー」や、人に安心感を与え、
 純粋さをアピールできる「ペールピンク」、そして「ホワイト」。財布や革小物選びにも意識的に取り入れて開運を掴みたい。

1. Prada 洒落たピンクの「サフィアーノ」レザーが特別感満載。すっきりとしたシルエットにメタルロゴを同トーンでオンして大人顔でまとめた。財布 [W9×H8] ¥90,200 [予定価格] (プラダ/プラダ クライアントサービス)
2. Fendi 濃淡イエローの大胆なカラーブロックにダイアゴナルに施された「FF」ロゴのクロージャーが映える。日本限定。財布 [W19×H9×D1] ¥99,000 [予定価格/3月中旬発売予定] (フェンディ/フェンディ ジャパン)
3. Balenciaga クラシックな紙封筒に着想を得たフラップが目玉を引く。上質なイタリアンレザーを開運カラーのライトピンクで。財布 [W20×H13×D4] ¥88,000 (バレンシアガ/バレンシアガ クライアントサービス)
4. Bottega Veneta ベストセラーシリーズ「カセット」から遊び心溢れるギザギザカット仕様が日本限定で登場。シャーベットイエローでラッキーを掴んで。財布 [W11.5×H9×D2] ¥97,900 (ボッテガ・ヴェネタ/ボッテガ・ヴェネタ ジャパン)
5. Saint Laurent V字カットのフラップに合わせたシャープなキルティングにYSLのカサンドラロゴを大胆に配して。財布 [W10.5×H9×D3] ¥93,500 (サンローラン バイ アンソニー・ヴァカレロ/サンローラン クライアントサービス)
6. Givenchy レザークロスストラップにゴールドフィニッシュのメタルバックルが光る。ペールイエローがラッキーを導いてくれる。カードホルダー [W13.5×H8×D1] ¥53,900 (ジバンシィ/ジバンシィ ジャパン)
7. Miu Miu ほどこくシボ感のあるミニマルなホワイトのソフトレザーにモアレラインがニュアンスをプラス。財布 [W11.2×H8.5] ¥68,200 [予定価格] (ミュウミュウ/ミュウミュウ クライアントサービス)
8. Jil Sander ストラップが持ち運びに便利なカードバース。カナリイエローで運を呼び込んで。カードホルダー [W11.5×H12×D2] ¥74,800 (ジル サンダー バイ ルーシー アンド ルーク・メイヤー/ジルサンダージャパン)
9. Valentino Garavani スリムなコインバースにカードスロットを4つ備えたコンパクトなカードケース。上品なライトアイボリーを味方に。カードケース [W19×H14×D1] ¥52,800 (ヴァレンティノ ガラヴァーニ/ヴァレンティノ インフォメーションデスク)
10. Celine 光沢あるライトピンクのレザーに立体的なトリオンフのクロージャーが存在感抜群に輝く。財布 [W10.5×H8.5×D4] ¥89,100 [予定価格] (セリーヌ バイ エディ・スリマン/セリーヌ ジャパン)

♊ 双子座gemini 5月21日→6月21日★インフルになる時。望みがあるなら一点に集中して取り組めます。小さな目標から始めた自分をサポートしながら、自然と自己効力感が高まり現実に驚くような変化が表れます。

レッジョ・エミリア

「マックスマラー」の誕生の地を訪ねて

1951年に創業された「マックスマラー」は世界的なブランドになった現在も創業の地、イタリアのレッジョ・エミリアに拘り、その根を深くおろしている。

文・田居克人 marie claire編集長

2024年春夏ミラノコレクションが終わってからも間もなくの10月、まだ夏の香りが残るミラノ・リナーテ空港に到着。シルバーのAudi A6で「マックスマラー」本社のあるレッジョ・エミリアへ向かった。

レッジョ・エミリアは「マックスマラー」の原点

レッジョ・エミリアはイタリア共和国のエミリア＝ロマーニャ州に位置する人口17万人の小さな町。建物の多くは16～17世紀に建てられたもの。

中世以来、イタリア半島では大小の都市国家が各地に点在していた。1861年、イタリア統一運動によってイタリアは王国として成立、その後君主制が廃止され、1948年イタリア共和国が誕生した。その時に左から緑(国土と自由)、白(雪と平等)、赤(情熱と博愛)の国旗が誕生した。その三色旗は、実は1797年ごろレッジョ・エミリアで誕生したものが採用されたのだ。町の中心部にはレッジョ・エミリアの守護聖人を祭るサン・プロスペロ聖堂があり、聖堂前の広場には「マックスマラー」の店も軒を連ねている。

約10年前にも訪れたことのあるレッジョ・エミリアだが、当時の面影はそのまま、以前と同様、のどかな雰囲気が漂っていた。チェックインしたホテルも「マックスマラー」の経営するホテル「ALBERGO-DELLE-NOTARIE」で



街の中心、守護聖人を祭るサン・プロスペロ聖堂



「コレツィオーネ・マラモッティ」元は本社であった建物が現在は美術館に



美術館には、アキーレ・マラモッティが収集を始めた現代美術が展示

山小屋風の素朴なホテルだ。

創業者が始めた現代美術収集は、今では立派な美術館に

最初に案内されたのは「コレツィオーネ・マラモッティ」。ここは以前「マックスマラー」の本社のあった建物だが、何回かリノベーションを経て、今はイギリスのモダンデザイン建築に生まれ変わり、現代美術を展示する美術館に。展示されている現代美術は、創業者のアキーレ・マラモッティが何十年もかけて収集したもの。フランシス・ベーコン、サイトウオンブリー、ゲルハルト・リヒター、ジャン＝ミシェル・バスキア、ジュリアン・シュナベルなど現代美術の代表的作家の作品が展示されている。この収集は現在のブランドのリーダー、ルイジ・マラモッティにも引き継がれ、ミラノの本社ビルにも多くの現代美術の作品が展示されているのだ。

創業者アキーレ・マラモッティは1951年、母が設立した洋裁学校の一角で「マックスマラー」を立ち上げた。これからは既製服の時代になると予見した彼は、上質な既製服の生産を始めたのだ。最新の技術を使う一方、職人技も取り入れ、上質さにこだわった。そのため生産工程は綿密に計算され、また選び抜かれた素材を使い、現在のような上質な既製服へと進化していったのだ。

ライブラリーとアーカイブから知る「マックスマラー」の理念

2003年、「マックスマラー」は自社の歴史を、誰でもわかるように整理し、また次の世代にも伝えていくことを目的に、ライブラリーとアーカイブを設けた。

翌日はこれらの見学に出かけた。案内のために待っていたのはクリエイティブ・ディレクターのイアン・グリフィス氏。

イアン・グリフィス氏自身、このアーカイブとライブラリーには頻りに訪れるという。インスピレーションを得るため、そして歴史を感じるためだ。

ライブラリーにはアートやファッション関係の書籍や雑誌などが年代順に図書館のように保管され、またアーカイブには、いままでのコレクションのデザイン画、広告、写真などが保管されている。この作業を始めた当初は個人からの寄贈などによって収集したという。その後もオークションで購入したり、世界のヴィンテージクローズを扱う店などで購入し続け、その点数は2万点以上。また今まで使用されたファブリックやテキスタイルも保管されているので、その規模の大きさがわかっていくもの。デザイナーは本物を見、触れなくてはいけないという考えがそこにあるからだ。ライブラリーとアーカイブの重要性は、イアン・グリフィス氏がレッジョ・エミリアに滞在中は毎日のように訪れることからよくわかる。アーカイブには「マックスマラー」の代名詞でもあるカメルのコートも年代別に陳列されていて壮観

だ。「シャネル」や「イヴ・サンローラン」など他ブランドの歴史的なドレスなども収集されている。

また「マックスマラー」には、カール・ラガーフェルドやアンヌ・マリー・ベレッタ、カステル・バジャックなど今まで多くの有名デザイナーがかかわっている。「マックスマラー」はそのことを前面には打ち出したことはない。それが「マックスマラー」の理念だからだ。そして彼らのデザイン画もライブラリーに大切に保管されている。変化する現代に女性のライフスタイルに合う服作りが「マックスマラー」のミッションだと考えているからなのだ。

イアン・グリフィス氏はロンドンでセントラル・セント・マーティンに通っていた学生時代、彼の作品を見た創業者アキーレ・マラモッティにその才能を見出され「マックスマラー」で働くことになったという。そのきっかけとなったのはコートのデザイン。もちろんそのデザイン画もライブラリーに保管されている。

「マックスマラー」の製品は現在世界100カ国以上で販売されている。それが可能なものこのようなライブラリーやアーカイブがあるからこそ、また働いているすべての人から感じる誇り、そして時代ごとの女性のライフスタイルに合う上質な服を作っていくというはっきりした社の理念があるからなのだろう。

この旅で感じたのは、ブランドは、ゆるぎない信念と絶え間ない努力、熱意があるからこそ生き続けていくことができるのだ、ということだった。



年代別、アイテム別に整理されたアーカイブ

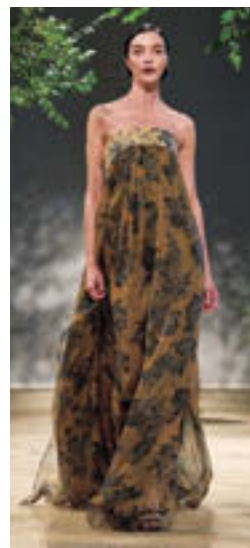


「マックスマラー」のアイコン、カメルのコートも年代順に収められている



コレクションの会場には植物が生い茂り、英国の田園風景を思わせるランウェイが登場

Spring & Summer 2024 Collection



装いのアクセントにはガーデンバッグが着想源のトートバッグやボックス型バッグを

カンントリーライクなワークウェアが洗練されたスタイルに昇華

「マックスマラー」の2024年春夏コレクションの着想源は、1940年代のイギリスで活躍した「ウイメンズ・ランド・アーミー」(婦人農耕部隊)のメンバーたち。ランド・ガールズと呼ばれた彼女らは、国をあげての戦争で多くの男性が戦地に赴くなか、不在となった男性たちの代わりに農業などの力仕事に従事し、国を支える大きな存在となっていた。今回のコレクションでは、このランド・ガールズのワークウェアに着目。ジョッパーズやオールインワンなどの実用的アイテムを洗練されたアイテムとして蘇らせた。さらにスコップを入れるのに十分な大きさのポケットやポーチ、丈夫なステッチやサスペンダーなど、実用性を重視したディテールも取り入れ、モードなデザインのアクセントに。そして自然の野の花やイングリッシュガーデンのカラーパレットで彩られた厚地のコットンも多用。手作業によって製品染めされたアイテムたちは、自然のムラ感が際立ち、一つ一つが違う表情を放っている。さらにイギリスの庭師が着ているコットンのチュニックやガーデニングエプロンを想起させるドレスも登場。イブニングにも活躍するフェミニンなドレスにワークウェアの要素を加え、強さとエレガンスを共存させたスタイルも、「ユーティリティグラマー」を追求する「マックスマラー」らしい表現だ。

本社のライブラリーで過去の資料を見るイアン・グリフィス氏

今までのデザイン画やスケッチが年代順に保管されている



商品在庫が並ぶ店のストックルームをコンセプトに、ミニマルでラグジュアリーな空間に仕上げた。シューズボックスが並ぶディスプレイ棚や、デザイン画を収納する引き出しが重なった壁など、ブランドの裏側を巧みに取り入れている

JIMMY CHOO
GINZA CONCEPT STORE
東京都中央区銀座2-6-3
営業時間:11時~20時
お問い合わせ先: 0120-013-700
https://www.jimmychoo.jp/ja/home



Limited Item



THE FLOWER SERIES



上段: オークキッド柄のバッグは銀座店限定カラー。バッグ(左) "アヴェニュートート バッグ エス" [W20×H17×D12] ¥179,300 (右) "ミニ ノースサウストード" [W13.5×H18×D7.6] ¥143,000 下段: パルクチュール刺繍メゾン「レ・ザトリエ・ヴェルモン」とコラボレーションしたカプセルコレクション。世界10都市を着想源にした「ザ・フラワーシリーズ」から、写真は東京をイメージした作品。靴 [H6.5cm] ¥823,900 バッグ [W14×H15×D9.5] ¥946,000 (すべてジミー チュウ)

JIMMY CHOO

グラマラスと革新性を表現 「ジミー チュウ」が 銀座コンセプトストアをオープン

ロンドンのラグジュアリーブランド、「ジミー チュウ」が日本最大級の売り場面積を誇る店舗を銀座にオープン。それを記念して、クリエイティブ・ディレクターのサンドラ・チョイが来日した。

text: Tomoko Kawakami



Sandra Choi サンドラ・チョイ

英国ワイト島生まれ。香港で育ち、進学のため10代でロンドンへ移住。セントラル・セント・マーティンズに入学し、ファッションデザインを学びながら、叔父でクチュール・シューメーカーのジミー・チュウの工房で靴作りを手伝う。1996年、シューズブランド「ジミー チュウ」のクリエイティブ・ディレクターに就任。現在もロンドンを拠点にブランドを展開。

故

ダイアナ皇太子妃も愛した美しいハイヒールから、その物語が始まったロンドンのブランド「ジミー チュウ」。現在では、シューズに加え、バッグやフレグランスなど幅広いラインナップを網羅するラグジュアリーブランドへと成長した。創立者のジミー・チュウの姪で、1996年の設立時からクリエイティブ・ディレクターを務めているサンドラ・チョイは、今もブランドを牽引する中心的人物。その彼女が、先ごろ、「ジミー チュウ 銀座コンセプトストア」のオープンのために来日した。日本国内最大級の売り場面積となる新店舗は、レディス、メンズのシューズはもちろん、バッグや香水、スモールレザーグッズなど、ブランドの世界観を存分に楽しめる豊富な品揃えが魅力だ。2フロアからなる新店舗を手掛けたのは、建築・デザインオフィス「クロスビー スタジオ」の創設者、ハリー・ヌリエフ。「ハリーにはブランドのイメージを残したまま、新しい要素を加えたいと依頼しました。さらにシューズの製造過程の雰囲気をお客様に伝えたかった。シューズができるまでの工程で私が一番高揚する瞬間は、完

成したシューズが入った多くのボックスが出荷される時。この店舗でも、シューズボックスが積み上がった壁を取り入れることで、そのムードを表現しました」美しいハイヒールで世界の女性を虜にしている「ジミー チュウ」は、日本でも多くのファンを持つ。「セレブリティたちが自分を特別な存在だとアピールするときに、「ジミー チュウ」は、とても重要な役割を果たしてきました。そして、物作りへの期待値が非常に高い日本のお客様にも、その期待を超えるものを提供し続けていきたいです。見た目の派手さより、素材や仕立てに高級感を求める日本市場には、「クワイエットラグジュアリー」の mindset がマッチします。2024年はよりクラフツマンシップに焦点を当てた企画を考えております。その第1弾として、パリのクチュール刺繍メゾンとコラボレーションしたカプセルコレクションを発表しました。手作業によるクリエイションが目を奪う素晴らしい仕上げです」



茶陶の名窯「大樋焼」の家に生まれ、現当主11代目を父に持ち、建築家陶芸家の奈良祐希の作品とハイジュエリーの共演。最新のテクノロジーを駆使した建築設計の手法と、大樋焼の伝統技術を融合させた作品がジュエリーを美しく際立たせる



江戸時代から200年以上続く京都の染色工房「染司よしおか」の6代目である染織家の吉岡更紗。ハイジュエリーの後ろに飾られているのは、彼女が染めた美しいブルーの布。古くからの手法に倣い、すべて自然界にある染料で染められている



サウンドアーティストの細井美裕は、「ショーメ」のハイジュエリーを着想源にした六つの音楽を制作。六つのスピーカーから流れる異なる音楽に耳を傾けながら、飾られている美しいジュエリーを目で楽しむ新しい試みだ

横

浜の三溪園で行われた2021年に続き、2023年も日本の伝統工芸作家たちとタッグを組み、美しい展示会を開催した「ショーメ」。1780年の創業以来、伝統的な宝飾技術を受け継ぎつつ、今も進化を止めない「ショーメ」が日本の伝統を守りながら、新しい解釈で作品を生み出す3名のアーティストと組んだ理由は何なのか? この催しのために来日したメゾンの前最高経営責任者(CEO)、ジャンマルク・マンズヴェルト氏に話を聞いた。「まずはフランスと日本の出会いができたらと。日本では匠の技を親から子へ、家族で継承していくことが多いと聞いております。それは「ショーメ」も同じで、243年の歴史において、今の工房長は13代目です。また、今回のように異なる分野の壮大な匠の技の「対話」というコンセプトは、「ショーメ」の作品に対して、新しい視点、視野を与えてくれると考えています」

今回の展示会では、陶芸家の奈良祐

CHAUMET

ハイジュエリーと 日本の若き匠の作品が共演 「ショーメ」と美との対話

パリを代表する老舗ジュエラー「ショーメ」。伝統を継承しながら進化を止めないメゾンが、東京を舞台に日本の若き匠とコラボレーションした展示会を開催した。

text: Satsuki Tadokoro



「ショーメ」の長い歴史、そして卓越したクラフツマンシップの象徴とも言えるのがハイジュエリーコレクション。今回の展示には2023年に発表された稀少なピースが展示された。「ル ジャルダン ドゥ ショーメ コレクション アガバンス ネットレス」[ダイヤモンド×サファイア×ホワイトゴールド] ¥330,000,000円【参考価格】(ショーメ)

希、染織家の吉岡更紗、そしてサウンドアーティストの細井美裕の3名に作品を依頼。彼らの斬新なアートピースと「ショーメ」のハイジュエリーが見事に融合した展示により、モダンな世界を見せてくれた。「なかでも音楽とジュエリーのコラボレーションは新鮮でした。私自身、何度も見て知っているジュエリーなのに、今まで目にしたことがない新たな輝きを、音楽と耳の力を借りることで発見できました。アート作品との対話によって、ジュエリーの魅力がさらに深く掘り下げられたのです。そんな予期せぬ方向へ人々を誘うことこそ、『ショーメ』が求めるやり方です」

現在、世界的な動向に従って、日本においてもハイジュエリーの市場が大きく拡大を見せている。「ショーメ」にとっても日本は重要な国の一つだという。「身に着ける美しい装飾品でありながらも、いわゆる芸術作品として捉える方も増えていると思います。それにより、投資の



ジャンマルク・マンズヴェルト「ショーメ」前最高経営責任者(CEO)

対象や次世代へ相続するものへと変化しています」

ハイジュエリーの稀少性や芸術性により注目が集まる今、「ショーメ」は伝統の継承と革新的な物作りを両輪に、さらなる探究を続けている。

Travel | 2024年、旅のアジェンダ「ラグジュアリーな非日常」が待つ場所へ

ゆっくりと、でも確実に戻りつつある私たちの日常。そろそろかつてのように旅を再開したいという方に、2024年におすすめの「ラグジュアリーな非日常」が待つ場所をご紹介します。

text: Jun Makiguchi

今、ふたたびのクルーズ元年を愉しむ

豪華客船の就航が相次ぎ、日本のクルーズ元年と呼ばれた平成元年から36年。時を経て今、再びクルーズが注目されている。世界一周プランや美食自慢のブランドなど、個性もいろいろ。船上での楽しみは違って共通するのは、せわしない移動や余白のない旅程にわずらわされないゆったりとした時間。そして大海原を漂う解放感。ぜひ、クルーズで新しいラグジュアリーを発見してみよう。



1,238名収容の「リビエラ」。アジアを代表する寄港地と食に特化



Riviera リビエラ

食通向けクルーズブランドで洋上最高級の食体験を

美食と寄港地の魅力を追求し世界を牽引するオーシャンクルーズが、大改装を終えた「リビエラ」でこの3月、日本の港に初寄港。石垣島や東京のほか、韓国、台湾、ベトナム、中国などで様々な文化に触れながら、洋上最高の料理を楽しむラグジュアリーかつリラックスな旅が叶う。また、昨年就航した新造船「ピスタ」は、高まるソロトラベラーの要望に応じて一人旅専用客室を導入し話題に。2024年10月には「マリーナ」にて「カリナリーマスターズクルーズ」も開催される。メートル・キュージニエド・フランスという権威ある協会に名を連ねるシェフが腕を振るう、美食イベントも見逃さない。

オーシャンクルーズ
https://jp.oceaniacruises.com



Diamond Princess

ダイヤモンド・プリンセス セレブリティをも魅了してきたクルーズ界のお姫様

日本発着クルーズ就航 12 年目を迎えるプリンセス・クルーズ。オードリー・ヘプバーンや故ダイアナ皇太子妃が命名した「プリンセス」たちの姉妹でもあるのが、三菱重工長崎造船所で建造された日本生まれの客船「ダイヤモンド・プリンセス」だ。2024 年は、日本を代表する夏祭りを巡ったり、北海道と鹿児島を一度に訪れたり、世界遺産の地を旅したりと、四季折々の風情とともに、日本の魅力を再発見できるクルーズが多数。さらに、巡航速度を抑えることで大気汚染の削減に向けた環境への取り組み、寄港地への貢献も目指す。英国船籍ながら、日本語を話すスタッフ 100名ほどが乗船。欧米の本格クルーズ文化を感じながら、言葉の心配が不要なのも嬉しい。

プリンセス・クルーズ
https://princesscruises.jp



カリナリーマスターズクルーズを主催するエリック・アレクシ 両シェフ



展望浴場、本格寿司レストランなど日本文化に根ざしたサービスも

Asuka II 飛鳥II

優雅な花火鑑賞が叶う海上のスペシャルシートへ

日本船籍最大の客船「飛鳥II」。約100日間の世界一周クルーズ、アジア・オセアニア方面へのロングクルーズ、日本の夏祭りを巡るプランなどコースは多岐にわたる。全室海側の客室、露天風呂を含む充実した設備、和の心のおもてなし、日本人の嗜好に合わせた多彩な食やエンターテインメントなどで高い評価を得ている世界有数のラグジュアリー船だ。船旅ビギナーにも上級者にもおすすめの、船上から迫力ある花火を堪能できる神戸発「日南花火クルーズ」。人混みにもまれることなく優雅に、三方を山に囲まれた油津港に迫力ある花火の音が響き渡る「油津港まつり花火大会」を鑑賞。神戸発東京着なので、自身で旅をアレンジできる楽しみもある。

飛鳥クルーズ
https://www.asukacruise.co.jp/cruise/88170/
※各クルーズとも客室タイプによっては、満室となっている場合あり



出港翌日には宮崎県南部の日南へ。大輪の花火を間近で鑑賞

Nippon Maru につぼん丸

コンパクトな船体に魅力が満載 旬の味で旅人を満たす

日本を代表する客船として、長い歴史と伝統を誇る「につぼん丸」。コンパクトな船体を活かした離島めぐりや瀬戸内海航行が人気だ。各寄港地の名物や旬の食材で丁寧に作られる食事も旅人を魅了。二つのダイニング以外に、寿司バーもあり、和食・洋食ともにバリエーション豊かだ。フィットネスプログラム、カルチャー教室、ショー、ダンス、ゲームなど、1日中どこかで様々なイベントに参加可能。部屋でゆっくり過ごすもよし、アクティブに活動するもよし。自分らしい旅がデザインできる。

商船三井クルーズ
tel: 0120-791-211 https://www.nipponmaru.jp



開放感に溢れた「オーシャンダイニング春日」



ロイヤルブルーの船体と赤いファンネル(煙突)が特徴

HAWAII Golf

最も「ハワイらしい」島で大自然に抱かれ豪快なプレーを

1年を通して湿度が低く温暖な気候のハワイは、マリンスポーツだけでなく、ゴルフにも理想的なリゾート。ハワイ州最大の島、「ハワイ島」は、州最高峰で標高4000m級のマウナケア、世界遺産のキラウエア火山、ハワイアンソングにも登場する滝アカカ・フォールズなど火山の島を代表する雄大な自然を有する。南国ならではの風景、遠くにそびえる美しい山々など大自然に抱かれながら楽しむプレーは、とりわけ解放感と歓びに満ちている。海越えてグリーンを狙う豪快なコース、オーシャンビューコース、溶岩が配置されたチャレンジングなコースなど、プレーしながらハワイの大自然も堪能できる。

ハワイ州観光局
https://www.allhawaii.jp



食、音楽、芸術、文化が融合した多文化都市「オークランド」

NISEKO Ski

大自然の中で身も心も整える遊びで最高のウェルネスを

スキーリゾートとして、今や世界的にもトップクラスの人気を誇る北海道の「ニセコ」。そこに誕生したのが、大自然の中で唯一無二の非日常を体感できるヴィラリゾート「アングラ コレクション ニセコ」だ。約9,200㎡の敷地にヴィラはわずか6棟。すべてが1棟貸しだ。より特別なひとときを愉しむなら、「バトラー提案型パーソナルアシスタントサービス付宿泊プラン」がおすすめ。バトラーが事前ヒアリングを行い完全パーソナライズされたアシスタントサービスを含む旅を提案。良質なパウダースノーを堪能するもよし、温泉巡りや部屋にこもって雪景色を楽しむもよし。1日6組限定のデスティネーションホテルならではのラグジュアリーステイを体験してみたい。

「アングラ コレクション ニセコ」
〒044-0078 北海道倶知安町樺山217-8
tel: 0136-22-1816 https://andaru.jp/



溶岩台地の地形を活かした「アラライ コルフクラブ」



世界有数とも言われる美しい風景の「ワイヘキ島」



森の中にかまぐらのように佇むシンボリックなヴィラ

NEW ZEALAND Wine

都市からフェリーで40分 美しい風景の中でワインを

洗練された都市文化を誇りながらも、森林やビーチなど自然が身近にある「オークランド」。ニュージーランド最大の人口を誇り、日本からの直行便が就航している国内最大の国際空港を擁する街だ。オークランド中心街から、定期的に運航されているフェリーでわずか40分の所にあるのが、いくつもの美しいビーチに囲まれブドウ園やオリーブ園が点在している「ワイヘキ島」。恵まれた環境の中で生まれるワインも人気だ。ワイナリー、ブドウ園の数はおよそ27と決して多くないが、ここでは受賞歴もある最高級ワインが生まれている。島内ではバスやタクシーのほか、車や自転車、オートバイ、スクーターのレンタルが可能。旅行者にとって移動のしやすさも魅力だ。

ニュージーランド政府観光局
https://www.newzealand.com/

大きな開口部からは美しい白樺の林や太陽光が堪能できる



ホテル自慢のイタリアンレストラン「ULTIMO (ウルティモ)」で



ニセコは遊んで癒やされるリゾート ©Sea And Summit Media

今を最高の瞬間に変える、ラグジュアリーステイ「冬の沖縄」を楽しむ

text: Jun Makiguchi

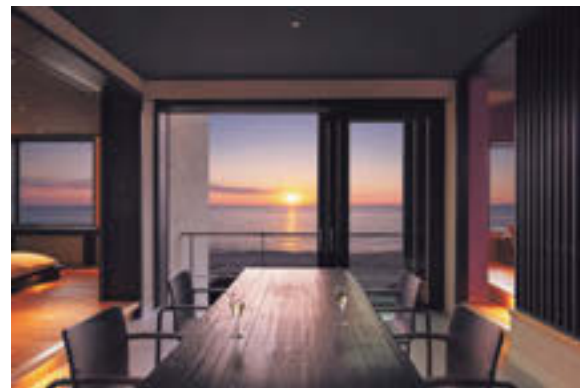


開放感のあるインフィニティプールでは冬季限定でアペリティフの演出も。シャンパーニュやオリジナルカクテル片手にアペリティフタイムが楽しめる

「星のや沖縄」

「その瞬間の特等席へ。」をコンセプトに、独創的なもてなしで圧倒的非日常を提供している「星のや」。その8番目の施設として、読谷村の西海岸線に沿い約1kmにわたって広がっているのが「星のや沖縄」だ。

施設のテーマは「グスクの居館」。沖縄の史跡からインスピレーションを得て造られた「グスクウォール」に囲まれた中で、海と共に暮らすように滞在できる。特徴は、沖縄の贅が集められていること。どこからでも海が近く、100室に及ぶ客室全てがオーシャンフロント。しかも、ベッドルームとリビングのあるスイートルームだ。全長20mのプライベートプールがある特別室「ティーダ(太陽)」、海に臨む「テラスリ



海に面した土間ダイニングから眺めるサンセットは絶景

ビング]のある「ハル(畑)」や「ティン(天)」、掘りごたつ式の床座(ゆかざ)リビングのある「フウシ(星)」と、いずれも海に近い部屋ばかり。全ての客室には、大きなテーブルのある「土間ダイニング」も。シェフが下準備を済ませた料理が届く「ギヤザリングサービス」を利用すれば、プライベートダイニングに早変わり。時間にとらわれることなく寛げる。ベッドルームの壁紙に読谷村の文化を取り入れたオリジナルデザインの琉球紅型(びんがた)が用いられている。沖繩の焼き物「やちむん」や「金細工(くがにざーく)」が使われていたり、客室にいながらにして土地の工芸品と出会えるのも嬉しい。

施設内には、専門誌で日本のホテルNo.1に選ばれた加温式のインフィニティプールや、琉球空手や三線などが学べ、伝統の「ぶくぶく茶」も提供してくれる道場など多様なパブリックエリアも点在。琉球王朝時代の文化や自然に触れるアクティビティも充実している。この季節なら、冬に採れる沖

世界有数の美しい海を誇る琉球。その地において、沖縄ラグジュアリーの最高峰との呼び声も高いリゾートが「星のや沖縄」だ。四季を通して、この時期にしか味わえない、その土地ならではの“最高の今”を体験できる「星のや」だから、冬こそ沖縄へ。



冬の沖縄で美を育む『気巡りスパイス滞在』

琉球王朝時代の交易によって伝来し、今ではフレッシュな状態で入手可能な沖縄特有のスパイス。生薬としても用いられ、身体を温める作用が期待できるスパイスに着目し、体内を巡ること心身ともに健康を保つと言われている東洋医学の「気」の概念と組み合わせ、気の巡りを整えるための2泊3日のプログラム。冬でも温暖な沖縄は、寒い季節でも屋外で快適に身体を動かしたい人に最適な土地。滞在中は、美しい海を眺めながら身体をしっかりと動かし、スパイスを使った良質な食事や、身体を温めるスパで健やかな心身を取り戻す。冬の沖縄だからこそ叫ぶウェルネス滞在だ。

期間：2月29日まで
料金：83,000円(税・サービス料込)※宿泊料別含まれるもの：スパイスワークショップ、「星のや沖縄スパ[月]」1回、夕食2回、朝食2回、昼食1回、入浴セット2回、プールでのエクササイズと浮遊浴参加、浜ウォーキング体験、浜かじ鍛錬深呼吸参加
定員：1日1組(2名まで)
予約：公式サイト
(<https://hoshinoresorts.com/ja/hotels/hoshinoyaokinawa>)にて2週間前までに予約



(左から)滞在中は身体を温めるとされる生薬やシナモンなどのスパイスを用いた料理。スパイスワークショップも実施され、作ったオイルやシロップは滞在中も楽しめるほか、持ち帰ることもできる



加温されたインフィニティプールでは、水中エクササイズと浮遊浴も体験できる

まだまだ楽しめる、冬ならではの沖縄満喫プラン

沖縄の豊かな海を体感できるプログラム「蒼海ホエールディスカバリー」。クルーザーに乗ってホエールウォッチングを。浅い海域の広がる読谷村沖の海は、親子クジラを間近に見ることのできる貴重な場所のひとつ。(期間：2月29日まで、料金：1組4名まで150,000円(税・サービス料込、宿泊料別 ※天候や海況により内容が変更になる場合あり)



星のや沖縄DATA
住所：〒904-0327 沖縄県中頭郡読谷村儀間 474
料金：1泊136,000円～
(1室あたり、税・サービス料込、食事別)
*通常予約は2泊より
電話：050-3134-8091(星のや総合予約)

TAHITI 五感を解き放つスローな旅 秘密の楽園「タヒチの島々」へ

text: Jun Makiguchi

2024年こそ、海外旅行再開元年に。思い切り非日常の世界へ飛び込みたいなら、真っ先に思い浮かぶのはビーチリゾート。直行便の再開でふたたび身近になった永遠の楽園「タヒチ」で、リトリートな時間を過ごしてみよう。

日本とタヒチを結ぶ唯一の航空会社「エア タヒチ スイ」で成田国際空港から約11時間のフランス領ポリネシア「タヒチ」。大小118の島々から成る南太平洋の楽園だ。ハネムーンに人気のリゾート、芸術家を魅了した海、サーファーの聖地など、美しい景観も過ごし方も多種多様。国内線や高速船で異なる魅力を持つ島々へと旅立つことも可能だ。例えば、地上で最も美しい島と称されるボラボラ島なら、世界のベストビーチ1位に選ばれたこともあるマティラエリアは必見。グラデーションが美しいブルーラグーンや、空一面を赤く染めるサンセットも極上だ。セーリングやシュノーケリング、ダイビングにドルフィン&ホエールウォッチングなど、アクティビティもバラエティ豊か。アイランドホッピングをして島ごとの自然や文化に親しみたい。

有名な水上バンガローもいろいろ、クルーズやヨットチャーターなど“水上ホテル”に泊まるのもいい。夏のピークシーズンを避け、マナや自然、地元の生活に溶け込める長期滞在もおすすすめだ。“マナ”とは「すべてのものをつなぐ生命力と精神」を意味する現地の言葉。ここは異なる顔を持つ島々が、神聖なパワーで繋がる特別な場所なのだ。人々の自然に対する愛と尊敬の念、マナの精神によって守られてきたタヒチの絶景。それは魂を癒やすとも称される。「地上の楽園」でスローライフを堪能すれば、いつしか身も心もきつとほめてくれることだろう。

●タヒチ島

©Steve Dickinson



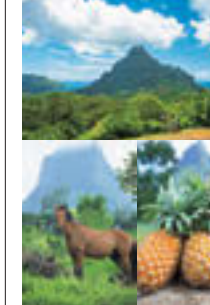
©Grégoire Le Bacon

パリ2024の舞台に。サーフィンの聖地

タヒチ最大の島であるタヒチ島には、サーフィンの聖地チョーブーがある。偉大なサーファー達からも賞賛される波で知られる地区だ。古くからこの競技が盛んに行われてきた伝説の場所であり、パリ2024オリンピックのサーフィン競技会場にも予定されている。首都パペーテ市内には地元の食文化や人々の活気を感じられるマルシェも早朝からオープン。

●モーレア島

©Bernard Bousquier



©Grégoire Le Bacon

自然の恵みに宿るゴーギャンを魅了した神秘的力

タヒチ島と同じソシエテ諸島に位置するモーレア島は、山々に囲まれた緑豊かな島。ゴーギャンが愛した島としても知られ、切り立った峰々を「古城のようだ」と称したことで有名。無数の花々やバイナツプル農園が彩る風景も魅惑的。ゴルフ、ダイビング、4WDツアー、ハイキング、バレオ染め体験などアクティビティの豊富さはタヒチで一番とも。

©Alexandre Voyet

お問い合わせ先：タヒチ観光局 www.TahitiTourisme.jp

●ファカラバ島

©Bernard Bousquier



©Grégoire Le Bacon

マティスの愛したブルーの海でダイビング

ツアモツ諸島に位置するファカラバ島。ユネスコの生物圏保護区にも指定されている島の環境には、手つかずのままの自然が残る。1930年にここを訪れたマティスは、光の具合によって様々な表情を見せるラグーンの青に魅せられ、マティスブルーを生み出したと言われている。透明度の高い水、浅瀬を泳ぐカラフルな魚、ブーゲンビリアの咲き乱れる道など、この島の風景はすべてが夢のよう。



©Alexandre Voyet



JGP International Orchid and Flower Show 2024

100万輪の蘭が会場を色鮮やかに染める。「世界らん展2024」開催

咲き誇る蘭に埋め尽くされた会場で非日常を満喫できる「世界らん展」が今年も開催される。今年の注目目は、高さ4mを超える壁面が蘭で埋め尽くされた「天空の花園」と、胡蝶蘭で覆われた直径約1.6mの球体が夜空に浮かぶ「幻想の蘭夜」の展示だ。その他にも遺伝子組み換えによって開発された世界初公開の「光るコチョウラン」や、「オキナワチドリ」などの南西諸島固有の蘭の展示など、蘭の魅力が詰まった展示が満載だ。ポタニカルマーケットには海外からの出店も復活し、愛好家垂涎の珍しい品種から、初心者向けまで多彩な商品が並び、眺めるだけでも楽しめる。今年も見どころ満載の「世界らん展」で、春の訪れを感じてみよう。

「世界らん展2024—花と緑の祭典—」
会場：東京ドームシティ プリズムホール
(東京都文京区後楽1-3-61)
開催期間：2月7日(水)～14日(水)
入場料金：前売り¥1,900、当日¥2,100
※保護者同伴の小学生以下は無料
世界らん展公式ホームページ、美術展ナビチケットアプリ、セブンチケットなど各種プレイガイドで販売中。
お問い合わせ先：
東京ドームシティわくわくダイヤル 03-5800-9999
<https://www.event-td.com/orchid/>



「色彩の魔術師」マティスが生み出した 自由自在な「切り紙絵」の世界へ

text: Saya Tsukahara



《花と果実》1952-1953年 切り紙絵 410×870cm ニース市マティス美術館蔵 ©Succession H. Matisse Photo: François Fernandez

20世紀美術を代表するフランスの巨匠の一人、アンリ・マティス(1869-1954)。60年以上におよぶ長い画業において、切り紙絵という新たな技法を生み出したのは、晩年のことである。「色彩の魔術師」と呼ばれる画家が到達した、自由自在に色と形を生み出す表現。本展はニース市マティス美術館の全面協力を得て、この切り紙絵を主軸に置く日本初の展覧会だ。

展示は、《マティス夫人の肖像》など初期の作品から始まる。マティスは目に見える色彩ではなく、心が感じる色彩を表現するフォーヴィスム(野獣派)の画家として知られ、ここから「色彩の道」を歩んだ。創造の現場であり絵画の主題でもあった「アトリエ」にまつわる作品も多数展示される。例えば《ロカイユ様式の肘掛け椅子》は思い入れの深い椅子を描いた代表作で、実際の椅子とともに出品される予

定だ。さらに、舞台装置から衣装デザイン、大型装飾に至るまで、領域を広げていくマティスの仕事を展望する。切り紙絵の技法を最初に用いたのは、1930年代、巨大な壁画に取り組む最中だった。

1941年、マティスは大病を患い、手術で一命を取り留める。一日の大半を車椅子やベッドで過ごしながらも、切り紙絵の技法で創作を続けた。制作方法は、まず絵具を吟味し、アシスタントが紙に色付けす



《マティス夫人の肖像》1905年 油彩/カンヴァス 46×38cm ニース市マティス美術館蔵 ©Succession H. Matisse Photo: François Fernandez
 《ロカイユ様式の肘掛け椅子》1946年 油彩/カンヴァス 92×73cm ニース市マティス美術館蔵 ©Succession H. Matisse Photo: François Fernandez
 《ブルー・ヌード IV》1952年 切り紙絵 103×74cm オルセー美術館蔵(ニース市マティス美術館寄託) ©Succession H. Matisse Photo: François Fernandez
 《白色のカズラ(上祭服)のためのマケット(正面)》1950-1952年 切り紙絵 126.5×196.5cm ニース市マティス美術館蔵 ©Succession H. Matisse Photo: François Fernandez
 制作中のマティス 1952年頃 ©photo Archives Matisse / D. R. Photo: Lydia Delectorskaya

次号予告 **marie claire** 2月29日刊行です 29th February, 2024

shop list 掲載商品のお問い合わせ先

ヴァレクストラ ジャパン tel: 03-5615-2379
 ヴァレンティノ インフォメーションデスク tel: 03-6384-3512
 ヴェンキ お客様専用窓口 tel: 0120-560-746
 エルメスジャパン tel: 03-3569-3300
 カルガンチュフ(帝国ホテルプラザ 東京) tel: 03-3539-8086
 グッチ クライアントサービス tel: 0120-99-2177
 クリスチャン ディオール tel: 0120-02-1947

クワイ カスタマーリレーションズ tel: 03-4335-1750
 京王プラザホテル tel: 03-3344-0111
 ザ・ペンinsula東京 tel: 03-6270-2888
 サン・ロラン クライアントサービス tel: 0120-95-2746
 資生堂バーラー 銀座本店 サロンドカフェ tel: 03-5537-6231
 ジェンシ ジャパン tel: 0120-218-025
 ジミー チュウ tel: 0120-013-700
 ショーメ tel: 03-6635-7057

ジルサンダー ジャパン tel: 0120-919-256
 新宿高島屋 tel: 03-5361-1111
 セリーヌ ジャパン tel: 03-5414-1401
 ハ バレンシアガ クライアントサービス tel: 0120-992-136
 フェラガモ ジャパン tel: 0120-202-170
 フェンディ ジャパン tel: 0120-001-829
 プラダ クライアントサービス tel: 0120-45-1913
 プルガリ イル・チョコレート tel: 03-6362-0510

ボッテガヴェネタ ジャパン tel: 0120-60-1966
 マ ミュウミュウ ジャパン tel: 0120-030-535
 ミュウミュウ クライアントサービス tel: 0120-45-1993
 ラ ラマンデュ・ショコラ
 mail: contact@lamanaisonduchocolat.co.jp
 ルイ・ヴィトン クライアントサービス tel: 0120-00-1854
 ロレペ ジャパン クライアントサービス tel: 03-6215-6116



Chocolate: Lots of Love

バレンタインチョコラに夢中

心も華やかバレンタインシーズンはすぐそこ。宝石のような一粒からピターな甘さが詰まったパフェやパンなど、チョコレートの多彩な魅力を味わえるのもこの時期だけのお楽しみ。

水瓶座aquarius 1月20日~2月18日★先取りする時、幸せの先取りをして、自分が望む生活をして、自分の心を育てていきます。心が先で現実の変化は後からついてきます。楽しく幸せな時間を増やします。魚座pisces 2月19日~3月20日★創造する時、豊かさを創造します。内面と物質面どちらもフランスよく意識的に創ります。現状で満足している部分に意識を向けず、余裕を満ちます。するとその不足する現実が現れます。

1 LA MAISON DU CHOCOLAT

2 THE PENINSULA TOKYO

8 KEIO PLAZA HOTEL

3 BVLGARI IL CIOCCOLATO

7 SHISEIDO PARLOUR SALON DE CAFÉ

4 GARGANTUA

5 JADE GENIN

1.LA MAISON DU CHOCOLAT パリショコラ界のバイオニアによる新作は、ピンクのチュールリップをモチーフにしたハート型のチョコレート。フランスのアトリエで、丁寧に手作りされたもの。サクッと香ばしいプラリネには、静岡の玄米を使用。シェフの日本への想いが込められている。「プシェ クール ブーケ」(1個) ¥3,186 (ラマンデュ・ショコラ) 2.BVLGARI IL CIOCCOLATO 南イタリアをイメージした新作5粒(左から)「オーブオイル&バジル」「アーモンド&ローズマリー」「ピスタチオ&フェネル」「オレンジ&シナモン」「ベルガモット&ケッパー」をセット。厳選素材による「プルガリ」らしい新表現にも注目。「サン・ヴァレンティノ2024」(5個入り) ¥6400(プルガリ イル・チョコレート) 3.THE PENINSULA TOKYO 金箔が美しいケーキ。直径10cmのホールケーキなので、2人でシェアするのにぴったり。ふわふわのスフレベースのチョコレートケーキにコンポート酒を含んだチョコレートクリームを重ねて。驚くほど贅沢に、金箔をトッピング。「チョコレート スフレケーキ」(ホール) ¥2,600[~3/14期間限定] (ザ・ペンinsula東京) 4.GARGANTUA 帝国ホテル 東京[カルガンチュフ]のバレンタインシーズン限定パネトーネは、フランス産のチョコレートとイタリア産シュークリームをミックスした味わい。日持ちがするうえに、ボリュームがあるので、手土産やギフトにも喜ばれるはず。「パネトーネ ~スリッシュショコラ~」 ¥3,800 [~2/29期間限定] (帝国ホテルプラザ 東京 1階) 5.JADE GENIN パリで話題の新ブランド「ジャド・ジュナン」が日本初登場。有名ショコラティエ、ジャック・ジュナン氏を父に持つジャド・ジュナンは2022年、オベラ地区にプティックをオープン。洗練されたゴールドの缶に並ぶピラミッド型のショコラは、それぞれ異なるハーブやスパイスなどの風味。「ピラミッド」(15個入り) ¥4,752 [店頭・WEBにて販売] (高島屋) 6.VENCHI 2024年の「ヴェンキ」のバレンタインコレクションは春が訪れたかのような華やかさ。中でも、「クランチャー ソルテッド キャラメル」や「ハーゼルナッツ」などの、新作が3種も入った人気のプラリネを集めたコレクションボックスは注目。「プラリネ スカーレット ハンバー」 ¥5,400(ヴェンキ) 7.SHISEIDO PARLOUR SALON DE CAFÉ さまざまなベリーのティラミスが麗しかった。バレンタイン限定の遊び心溢れる「ヴェ」マスカルポーネとベリーを使ってティラミスの風味をさわやかに表現。「バレンタインベッサルパフェ フリュールージュのティラミス仕立て」 ¥2,800 [~2/14期間限定 予約不可] (資生堂バーラー 銀座本店 サロンドカフェ) 8.KEIO PLAZA HOTEL 京王プラザホテルで毎年人気の地球儀型のチョコレート。今年のカラーは華やかな赤。チョコレートドームの中は、新作のボンボンショコラ「トンカ」「鉄観音」「キャラメルバナナ」ほか「カラク」の4種入り。「プレザンスフェール 2024」 ¥4,200 [~3/14数量限定 要予約] (京王プラザホテル)

山羊座capricorn 12月22日~1月19日★小さな幸せに意識を向ける時。自分の健康を大切に。頑張る自分を労います。自分に対するケアは自尊心を高め、幸せに敏感になり、すべてを自然と望む人生が展開されていきます。